

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター	
施 設 名	宮古市民文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	13,033	(千円)
	公 演 事 業	8,679 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,354 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	「岬のマヨイガ」※	2/6, 9, 3/17~21	演目：岬のマヨイガ 出演者：竹下景子、栗田桃子、井上向日葵、坂元貞美、嶋村太一、森下亮、藤尾勘太郎、大谷優衣、岡野桃子、輝路、塚田次美、山内庸平、酒巻誉洋 スタッフ：詩森ろば、沢則行、鈴木光介ほか ※緊急事態宣言等に伴う客席制限(50%)での上演。	目標値	1,987
		宮古市民文化会館、盛岡劇場、東京芸術劇場		実績値	1,378

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	みやこコミュニティシアター事業 「みやこ市民劇ファクトリー」※	12/5~6	演目：朝日がのぼる街 作：山根真生子 演出：志賀政信 出演・スタッフ：みやこ市民劇ファクトリー	目標値	入場者 250名 参加者 50名
		宮古市民文化会館 中ホール	※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う客席制限（50%）を受けての上演。	実績値	入場者 150名 参加者 21名
2	みやこコンサート キャラバン事業※	7/29~31	演奏：山口あうい、伊禮しおり、熊谷啓幸、藤澤英子、三浦祥子、寺崎巖	目標値	入場者 200名
		田老公民館、山口公民館、長根寺等	※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う客席制限（50%）での上演。	実績値	入場者 102名
3	未来のためのアートプログラム～介護と演劇～※	-	※中止：新型コロナウイルス感染症拡大防止による中止	目標値	参加者 30名
		-		実績値	0
4	芸能 Re;Connect※	3/14	出演：黒森神楽保存会、津軽石さんさ保存会、南川目さんさ保存会、花輪鹿踊り保存会	目標値	入場者 500名
		宮古市民文化会館 大ホール	※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う客席制限（50%）での上演	実績値	入場 214名
5	ダンス借景事業 「踊ろう！みんなの縄文かもしれない体操」※	-	※中止：新型コロナウイルス感染症拡大防止による中止	目標値	入場者 100名
		-		実績値	0
6	ARTS FOR U18※	7/3~8/15, 9/29	[高校生鑑賞講演] 演奏：プラス・ファンタジスタ、いわてフィル弦楽アンサンブル [高校生ワークショップ] 講師：穴迫信一、池田亮、KOPERU、月亭太遊、工藤玲音、木之瀬雅貴、井上向日葵 ※変更：新型コロナウイルス感染症拡大を受け、公演の一部（4テージ）の中止	目標値	入場者 5,000名
		宮古市民文化会館 大ホール		実績値	入場者 680名 参加者 7名
7	ジュニアカンパニー事業※	6月~3月	[こども劇団みやこデイズ] 講師：小笠原景子、金野侑 脚本：小笠原梓、演出：小笠原景子 出演：こども劇団みやこデイズ [ジュニア・アンサンブル・みやこ] 講師：いわてフィル弦楽アンサンブルほか *変更：新型コロナウイルス感染症拡大防止により発表公演を関係者のみとした	目標値	入場者 700名 参加者 30名
		宮古市民文化会館		実績値	入場者 82名 参加者 10名
8	三陸劇場列車※	12/16~21	出演：穴迫信一、北尾亘 ※変更：新型コロナウイルス感染症拡大防止により公演を中止、オンラインでのリサーチ発表に変更	目標値	入場者 80名
		宮古市民文化会館 大ホール		実績値	-

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

宮古市民文化会館は岩手県中部沿岸（宮古・下閉伊地域）の芸術文化振興の中核となる文化施設である。東日本大震災で被災、大規模改修を経て平成 26 年 12 月に再開館した。文化会館は宮古文化施設設置条例に加え、震災からの復興という地域の特性を踏まえた宮古市総合計画ならびに震災の文化復興に関する提言書等を踏まえた 8 つの社会的ミッションを設定し運営している。

そのミッションのうち 4 つの項目をリンクさせた事業を計画した。

- (1) 文化芸術による次世代育成を推進する事業として、本市及び近隣地域の中学校・高等学校に一校も演劇部がないことを受けた人材育成事業
  - ▶（普及啓発事業 6）ARTS for U18
- (2) 鑑賞と発表の場から地域の芸術文化想像と発信を行う場としての役割を行う作品創造事業
  - ▶（公演事業 1）岬のマヨイガ
- (3) 地域内の多様な文化が交流し、新たな表現づくりを生み出す土壌を作り出す役割として、郷土芸能や地域の文化的資源を用いた舞台公演事業
  - ▶（普及啓発事業 4・8）芸能 Re:Connect 事業、三陸劇場列車事業
- (4) 新たなコミュニティの形成や、失われたコミュニティの復活を果たすやめの芸術文化活動を牽引する役割として、市内団体の活動サポート事業と
  - ▶（普及啓発事業 1・7）みやこコミュニティシアター事業、ジュニアカンパニー事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止として一部プログラムを中止・規模縮小をしたが、上記を計画し実施した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

令和 2 年度の宮古市総合計画基本構想・まちづくりの基本方針の中で「豊かな自然や歴史・芸術・伝統文化など地域の多様な資源を守り活用する「創造」のまちづくり」が掲げられた。震災 10 年を迎え災害公営住宅を含めたハード事業が概ね終了したものの、生活支援や心のケア等のソフト事業の継続の必要性が謳われている。

本館では芸術文化によるコミュニティの形成として、被災地ほか僻地へ向けたコンサートキャラバン事業を継続して行っている。気軽に会館に赴くことのできない地域でのアウトリーチコンサートは地域の集いの場となっており、特に他者との交流が極端に制限された今年度に置いては貴重な機会となった。次年度も継続して実施予定である。

以上のことから助成に値する意義が認められるものと思われる。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### <公演事業>

震災から 10 年となることから被災地である本市から震災をテーマに心の復興や新たなコミュニティの形成を描いた作品を創作し、地域の魅力と震災からの文化的復興を発信することを目的に実施した。県内では独自のプロデュースによる演劇作品の創造事業を実施している会館はなく、本市でも初めての試みとなった。

このことから実施にあたり、以下二つの目標を立てた。

①宮古市から新たな舞台芸術作品を創造、発信する

②優れた芸術家・実演家と市民の出会いを創出する

①については本市含めた周辺地域を題材とした演劇作品をアーティスト・イン・レジデンスにより創造し、本市ほか東京都で公演を行ったことで目標を達成とした。

②については一部の出演者を岩手県在住もしくは出身の俳優を 2 名加えること、また滞在期間中に市民に向けたワークショップの実施や稽古場見学等を行うことで達成度を図った。結果俳優は 1 名起用したものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてワークショップや稽古場見学等の交流事業は中止となり達成することはできなかった。また、本市では演劇鑑賞の機会が都市部ほど盛んではなく、また創造作品が児童文学作品を元にしたものであったため、客席の半数以上 (65%) の集客を指標とした。結果全会場 65% 以上の集客があり指標も達成したと言える。公演後のアンケートでは再演を希望する声も多かったほか、震災から 10 年の節目ということもあり被災地行きに目を向ける機会となったといった声もあったことから、被災地域からの芸術文化の発信の必要性を感じることができた。

#### <普及啓発事業>

本事業では 6 つの目標を立てた。

①市民が文化芸術の創作を目的に本館に集う機会を創出する。

②集落などに居住する市民が、住む場所で文化芸術を鑑賞する機会を創出する。

③既存の地域資源と文化芸術を掛け合わせ、街に新しい勝ちを創出する。

④郷土の芸能や生活文化と市民との新たな出会いを創出する。

⑤児童生徒が実演芸術を鑑賞や体験する機会を増やす

⑥街の地域課題に向き合う人材が芸術を活用する機会を増やす。

指数の目標は次の通りである。①は通年事業での市民参加数、②は宮古地区外在住者の鑑賞人数、③は会館とともに事業に参画する施設や団体数、⑤は市内の児童生徒の鑑賞人数、⑥は福祉と演劇を考えるワークショップへの参加者数を指標としたが、いずれも新型コロナウイルス感染症に伴う事業中止や客席制限、活動自粛を受け目標値を達成できなかった。④は主催事業である郷土芸能祭について 62% の鑑賞者数を指標としたが、実績として 60% に留まり達成できなかった。

アンケートを実施できた郷土芸能祭では「久しぶりに郷土芸能をみることができた」「すばらしい公演だった」との声が多く、公演にきた主な理由として来場者の 47% が「公演内容に興味があったから」と回答されたことから、④の主目的である郷土芸能と市民との新たな出会いの場の機会となれたといえる。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### <公演事業>

公演事業は1事業のみ実施した。事業期間としては、新型コロナウイルス感染症による移動自粛等がありオンライン等当初予定していた日程から変更はあったものの、概ね予定通り実施することができた。特に宮古市民文化会館は冬季のホール利用が少なく、新型コロナウイルス感染症によるイベント自粛や中止・延期が相次いだことから、当初より早めに小屋入りしての滞在製作を行うことができた。

感染症対策として、首都圏の出演者・スタッフはPCR検査のうえ、宮古入り後2週間のバブル方式での滞在製作を行った。3週間目より、公演をスタートツアーを行うことができた。

助成対象事業費の実績は当初予算の98%で予定通りに予算を執行できたと言えるが、緊急事態宣言等に伴う客席の制限50%を受け、収益は当初の予定を満たすことができなかった。

#### <普及啓発事業>

普及啓発事業は3事業の実施し、3事業を計画変更で実施した。

事業期間としては、どの事業も当初の予定通り実施することができた。事業番号⑥の計画では例年、対象者となる市内小中学校、高等学校の年間スケジュールを調整し実施している。今年度に関しては新型コロナ感染症蔓延の影響を受け、小学校・中学校及び設置者からとの協議で劇場での鑑賞が中止となった。結果、全小学校・中学校及び高校(27校)の開催が見送られた。実施できたのは秋の高等学校鑑賞(1校)のみとなった。なおワークショップは初めてオンラインに切り替え、需要を見込み高校演劇の大会前に実施したが、市外からの応募もあり、一定の需要があることを実感した。しかし、学校へのアウトリーチプログラムについては都市部からの移動自粛要請等を受け、実施することができなかった。

予定通り実施した事業①②⑦の事業費については当初予算通り執行できたが、鑑賞プログラムを組んでいた事業⑥はプログラムの中止、事業⑧は事業内容の変更を行い、結果当初予算よりも大幅に下回る結果となった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### ■文化拠点としての資源

市民の創作・活動の場としては、みやこ市民劇ファクトリーとこども劇団みやこデイズ、ジュニアアンサンブル・みやこは会館を拠点に活動し、提携団体として各団体の発表、公演の際には会館と協働で行なっている。これらの活動に加え豊かな郷土芸能の継承・発信等の取り組みが認められ、令和元年度地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞するほか、三陸国際芸術祭と連携として三陸広域での文化芸術活動を推進し、三陸沿岸における文化拠点としての活動を果たしていると考え。令和3年度はコロナ禍の岩手県内で最も早くオンラインの事業として配信事業並びにオンラインワークショップ事業を開催。設備環境の面では館内全室にインターネットワーク環境（WIFI）及び動画配信機材を導入し、主催事業・貸館事業で利用可能なものとし、文化芸術活動の継続ための取り組みを行った。またコロナウィルス感染症対策について独自のマニュアル等を作成し、早期に事業を再開したほか、バブル方式での作品製作など、他の県内施設に先駆けた感染症対策を行った。これらのことは当法人が岩手県より受託する「いわて文化芸術コーディネーター」として周辺市町村および文化施設への参考例として示すことができた。当施設は専門的かつ柔軟な事業展開が可能であるとともに、周辺市町村と連携する文化拠点としての役割も担っている。

#### ■文化拠点としての事業

令和2年度の特徴的な事業として3点挙げられる。

まず公演事業の「岬のマヨイガ」である。岩手県盛岡市在住の柏葉幸子氏作の「岬のマヨイガ」を盛岡市出身の詩森ろば氏の脚本演出で約3週間の滞在・創作し、岩手にゆかりのある人物による作品となった。今年度は震災から10年という節目でもあり、多様な支援の感謝を伝えるべく創作し被災地である岩手県沿岸から舞台を発信した。県内ほか東京での公演は反響も大きく、再演を望む声は多数寄せられた。この事業を通じて、宮古市民文化会館が「創造的な文化拠点」としての側面も持つことを示すことができた。

2つ目の事業として「みやこ郷土芸能祭」がある。今年度は新型コロナウイルスの影響で活動を予定していた市内の催事のほとんどが中止となり、本事業である芸能祭が唯一の活動となった団体もあった。少子高齢化の著しい本市に置いて継承活動の中止による影響は大きく、継続開催を大きく考える事業となった。また三陸沿岸地域での郷土芸能祭としては、他の活動を中止・自粛する中で最も早く活動を再開した事業となった。感染症対策を含め、再開の実績は、他の市町村が活動を再開するための参考となったものとする。

最後に「ARTS for U18」の中で実施したオンラインワークショップである。県内の中高生を対象にした演劇ワークショップを実施した。本市は都市部に比べ文化芸術を享受できる環境が極端に少ないため、本市にいながら全国で活躍するアーティストと直接話をできるWEBを解した交流は非常に有意義な企画となった。また緊急事態影響化でも文化芸術の活動を継続することができたという点において、文化拠点としての責務を果たすことができたと言える。

以上のことから地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する事業であったと考える。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

下記の3点から、地域の実演芸術の振興及び文化芸術の発展につながったと考えられる。

### ① 豊かな郷土芸能の発信（事業番号4）

例年開催しているみやこ郷土芸能祭は2020年3月に第12回となる公演を予定していたが新型コロナウイルスが流行し始めたことから中止となり、今年度は1年越しの開催となった。この1年は地域の祭事の中止が相次ぎほとんどの団体が披露の場、また練習の機会がない状態であった。このことから今年度開催したみやこ郷土芸能祭は唯一の活動の場であった団体もあった。

また実施した郷土芸能祭の様子は録画した公演を無料で公開している。劇場に足を運べなかった市民も多くいた中、配信サービスを利用し市内外へ郷土芸能を発信することができた。

以上のことから、コロナ禍においても地域の文化芸術の振興が可能であったと考える。

### ② 若年層への継続的な芸術体験（事業番号7）

市内小中高校生を対象にした音楽と演劇の二つのジュニアカンパニーを本館の附属団体とし、アーティストとの新たな出会いや技術向上の場を提供している。毎年1回の発表会・公演を目的に活動しており、今年度もコロナ禍の中実施することができた。市内の学校行事のほとんどが縮小開催もしくは中止となっており、舞台に立つ機会もなかったためか稽古や練習時から集中した雰囲気でも挑むことができた。

児童生徒を対象とした公演事業等の多くが中止となった一方で、感染症対策を徹底することで少人数ながら、実演芸術を学ぶ機会・触れる機会を担保することができた。

### ③ 新しい生活様式に合わせた芸術文化の創出（事業番号6・8）

新型コロナウイルス感染症による事業の中止・延期となる中、オンライン化が進んだことから、本館でもオンラインを活用した事業への転換を行なった。本来であれば宮古市内でしかできない事業をオンラインで実施したことにより、京都や九州など普段関わることができないアーティストと市内外の参加者が集い、交流する機会となった。また、本市に滞在したアーティストが創作に当たって行なったリサーチや作品に向けた会話を対談として記録しYoutubeで発信するという新しい試みを行なった。アーティストがどのようなプロセスで作品を作っていくかを公開し、次年度は今回のリサーチから実際に作品を作っていくプロジェクトに繋げることができ、実演芸術の製作を通じた振興ができたと考えられる。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

下記の3点から事業活動を通じた組織活動が持続的に発展していると考える。

#### ①職員の育成

事業・制作者等の育成については、外部の研修会への参加（年2～3回程度）のほか、年1回の専門家やプロデューサー等による制作者向けの基本的な研修を開催。今年度より職員同士のノウハウ交換する相互研修期間（2日間程度）などを設け、各自の獲得したノウハウ等の積極的な交換を促している。また月1回開催する事業会議等では、全職員が事業の企画提案を可能とする機会としている。事業終了時は、事業の実績報告およびパブリシティ報告をあげるとともに、ロジックモデルによる事業の自己評価を推奨し、事業と劇場ミッションの対応について確認する機会を設け、職員の育成の機会としている。

舞台技術者の育成については、主催事業にてプランナー・オペレーター等として参加する機会を設け、作品創作に携わることでその技術の向上を促している。また今年度は事業・制作者を対象とした舞台技術講習等（2日程度）を開催し、広く職員が技術業務にも当たれるものとし、主催事業・貸館事業を含めて、内容・サービスの質の向上に向けた取り組みとなっている。

#### ②地域団体とのパートナーシップ・市民の参画

事業の実施においては、劇場以外の市内の文化芸術の担い手の拡充を目的に、地域団体とのパートナーシップ型事業の実施や市民の参画を計画・推進している。今年度は新たな地域団体とのパートナーシップや参画する市民数はコロナ禍の影響で増加することができなかった。一方でコロナ禍ということで施設の事業実施に当たって意見を交換する機会が大幅に増えた側面もある。特に本市の全小学生・中学生・高校生が劇場での鑑賞を行う企画については、学校および宮古市、宮古市教育委員会との協議が重ねられた。これを機に、次年度以降も鑑賞のあり方含めて検討することとなった。

#### ③評価および資金調達

本館では事業終了後、観客・参加者にアンケートを行い事業の満足度や関心を調査するとともに、ロジックモデル等を用いた自己評価等を推進している。また月1回の経営企画会議にて事業のアウトプットについて報告を行い内部で検証しており、年2回地域の有識者によって構成される運営協議会にて事業を報告し、外部評価をおこなっている。今年度はコロナ禍におかえる感染症対策や事業運営について、高い評価を受け、文化芸術の活動再開の機運を高めることができたと考えている。また民間助成等についても積極的に活用し、今年度も継続して支援を受けることができた。運営者のみならず、市民および関係団体とともに運営する文化会館として発程しているものと考えている。